



陣内俊 Prayer Letter

Designed by CORKSCREW DESIGN WORKS /2008/All Rights Reserved

2022年1-3月号

Vol.57

支援者の皆様へ

支援者の皆様、いつもお祈り、ご支援をありがとうございます。

前号のレターに書きましたように、昨年後半は鬱の再発に見舞われ、まったく動けない期間が続きましたが、年末から体調が上向き、今年に入ってから発症前の水準まで回復しました。皆様のお祈りに支えられていることを身体に感じながら感謝の日々を過ごしています。

昨年12月には引っ越しもしました。距離にして2kmほどの近所なのですが、新しい住所は武蔵野市になりました。西東京市に引っ越した2017年には夫婦2人の生活でしたが、今は4人家族になっています。家具も段ボールもなくなった部屋で「(入居したときに広く感じた部屋が)ずいぶん狭くなったね」と妻と話しながら、ライフステージが変わるたびに「転居」する天幕生活をしたアブラハムと家族に親近感を覚えました。転勤族だった両親に育てられた幼少期から、私の人生はどういうわけか、同じ場所に5年以上住むということが殆どありません。それでも引っ越すたびに「気づかぬうちにこんなにも荷物が増えていたんだ」ということに驚きます。地上では旅人(第一ペテロ2:11)であることを思い出し、知らぬ間に有形無形の「荷物」を背負い込んできたことに気づくのは引っ越しの効用でもあります。時おり、人生の棚卸しをして、本当に大切なものだけを大切に、「大切にすべきもの」を貯め込まない生き方をしようと心新たにされました。

引っ越しは多大なエネルギーを使いますから、鬱からの回復が間に合うかどうか不安でしたが、**新居に落ち着いた今は「引っ越して本当に良かった」と感じています。**以前の物件よりも多少広くなったことで心理的余裕が生まれたことも大きいですが、何より「妻の実家から徒歩3分」という近さは素晴らしく、信仰者である妻の両親がそばにいてくれることの安心感と、子ども達が両親以外のロールモデルを見て育つことができるということがどれほど大きな祝福か、言葉では表せないほど感謝に満たされています。



祖父母の家で遊ぶななみ(2歳)とかなえ(4歳)

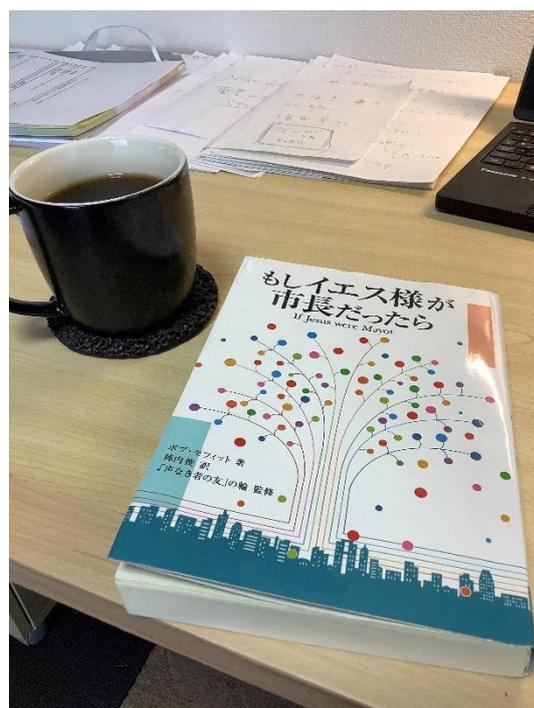
『もしイエス様が市長だったら』が出版されました！

メンターのボブ・モフィット師の『If Jesus were Mayor』の翻訳を始めたのは宣教の働きに身を投じた直後の 2008 年のことでした。当時、私の頭の中にあった青写真では 2010 年ぐらいには出版され、支援者の皆様にもそのご報告をする予定になっていました。ところが 2011 年の東日本大震災の発災、2013 年には私自身の鬱病の発症と、予測していなかった出来事によって計画は遅れていきました。鬱が寛解した 2017 年頃、発病前に既に終えていた下訳を読んだとき、全くしっくり来ず、翻訳し直すことにしました。その理由は私自身の日本語能力の向上ということもあるでしょうが、鬱病という魂の夜を経た私にとって、「それ以前の世界観」で翻訳された最初のバージョンの下訳への違和感が大きかったと思います。

そうして 2 度目の翻訳を始めてから 2 年が経ち、ようやく形になりかけた 2020 年春、新型コロナウイルス感染症の流行により出版はさらに先送りになりました。愛知県の出版社での最後の確認はどうしてもオンラインでは難しい作業だったため、最終行程はさらに 1 年先送りになりました。スゴクゲームでいうならば、二度に一度ぐらい「1 回休み」や「5 マス戻る」の出目を引きながら、スタートから 13 年が経った 2021 年の 12 月、ようやく本が形になりました。

この世に（とりわけ校正作業には）「完全」というものはありませんから、できあがった本を見て、誤植や翻訳の「粗」を探してしまう自分がいます（本を出版した経験のある人には分かると思います）。それでも是非、手に取って読んでいただきたいのです。それほどに、本書の内容には価値があると私は思っています。さらに言えば、私がこの 14 年間、人生を賭けて活動してきたことのすべてがこの本に詰まっているとも言えます。鬱の闇の中にいるとき、この本を形にして日本の教会にこのメッセージを届けるまでは、自分は死ねない、と半ば本気で思っていました。

本が形になった今、では私がすべきことがなくなったかというとなんかそんなことはありません。モフィット師は本書のなかで宣教の包括性 (Wholistic Mission) を強調し、「個人の霊的回心のためだけの宣教」を超えた「全人的な宣教」が社会全体を変革していくというビジョンを強調しています。しかし、この 10 年あまりの FVI の活動、特に原発事故後の福島での支援活動を通して思い知ったのは、ただ人間社会だけでなく、「被造世界の回復」もまた神の関心の大きな一部だということです。これについてモフィット師に了承と支持を得て日本語訳版の巻末に加筆した～被造物世界の回復もまた「包括性」に含まれる～に書かせていただきましたが、神の愛の包括性の高さ、長さ、広さ、深さは私たちの想像をどこまでも超えていきます。それだけではありません。鬱病の経験を経て、私は「病気が回復するという福音」だけでなく「病気それ自体が福音」という世界があることにも気づきましたし、神の愛の福音が日本という文脈でどう土着し花開くのかという、遠藤周作らが生涯をかけて取り組んだ「大問題」も残されています。私の人生という媒体を通して神のメッセージが流れていくために、これからも発信を続けていきます。それができますのも、ひとえに支援者の皆様のお祈りとご支援のおかげです。改めて感謝いたします。



書籍のご購入（税込 2,000 円 + 送料手数料）はこちらから！



メッセージ要約『不確かな時代に希望を生きる』

Volatility=変動、Uncertainty=不確実性、Complexity=複雑性、Ambiguity=曖昧性の頭文字を取って、現代は「VUCAの時代」と言われます。時代が加速度的に変化し、未来はもはや予測不能で、世界は不確実で不透明だという意味です。VUCAは誰もが不安になる時代でもあります。

聖書はVUCAの時代にも希望を失わずに生きる秘訣を教えてください。民数記13章の「カナンへの12人の斥候」の物語において、カレブは「私たちはぜひとも上って行って、そこを占領しましょう。必ず打ち勝つことができます（民数記13:30）」と言いますが、10名の斥候たちは「あの民のところには攻め上れない。あの民は私たちより強い（31節）」と怖じ気づきます。イスラエルの民は後者になびいて神を悲しませた結果、ヨシュアとカレブを除くその世代はだれひとりカナンの地を生きて踏むことがないと宣告されました（14:30）。同じものを見たはずなのに10名の斥候とカレブでは結論は違いました。両者を分けたものは何だったのでしょうか？

ヘンリ・ナウエンは著書『わが家への道』のなかで、自分の願望に絡み取られ、未来を思いどおり操作しようとする「閉じられた希望」と、開かれた態度を持ち、自分の願いに沿わない形であっても神は約束を実現してくださると信じる「開かれた希望」があるという意味のことを書いています（94～96頁）。斥候たちは全員、「希望」を持っていました。しかし、10名の斥候たちの希望は、「閉じられた希望」であったのに対して、ヨシュアとカレブのそれは「開かれた希望」だったと言えるのではないのでしょうか。

ニューヨークリハビリ研究所の壁に貼られた作者不詳の「ある兵士の詩」という詩があります。

——大きなことを成し遂げるために力を与えて欲しいと神に求めたのに／謙虚を学ぶようにと弱さを授かった。偉大なことができるように健康を求めたのに／より良きことをするようにと病気をたまわった。幸せになろうと富を求めたのに／賢明であるようにと貧困を授かった。世の人々の賞賛を得ようとして成功を求めたのに／得意にならないようにと失敗を授かった。……求められたものはひとつとして与えられなかったが／願いはすべて聞き届けられた。神の意に沿わぬものであるにもかかわらず／心の中に言い表せない祈りはすべて叶えられた。私はあらゆる人の中で最も豊かに祝福されたのだ。

私の鬱病もまた求めたものとは違いましたが、「言い表せない祈りの答え」であり、人生最良贈り物のひとつだと今は思っています。『もしイエス様が市長だったら』の出版も14年前に私が思っていたのはまったく違う回り道を経ましたが、そのプロセスこそが神からの祈りの答えだと思っています。



2022年、皆様にも私にも「予期していなかったこと」が必ず起きます。そのときに、まさにそれこそが神からの答えだと気づき、そこから祝福を引き出せる態度を身につけたいと願います。これは言うのは簡単ですが行うのは困難なことです。しかし、かの使徒パウロですら、「自分を苦しめる宿病のような病気（肉体のとげ）こそが神の祈りの答え」と悟り、開かれた希望を持つには、もがき葛藤しながら祈る日々を過ごしたことを思うとき、励ましを受けるのではないのでしょうか（第二コリント12:7～9節）。

メッセージの動画はこちら



祈りの課題

- ◇俊・純子・かなえ・ななみの体調が守られ、感染症、事故などからも守られるように。
- ◇『もしイエス様が市長だったら』の出版のために、コロナ禍で財政が厳しい中、FVI は約 100 万円の投資をしています。FVI の財政のためにも、このメッセージが日本の教会の建て上げに用いられるためにも、印刷した 3,000 部が完売し、多くの方々に読んでいただけるように。
- ◇2022 年も、神の御声を聞き、神の導かれることを行って御国の建設のために用いられるように。

2022 年 3 月以降の主な活動予定

月 日	内 容	場所、補足
3 月 1 日	FVI 役員会	オンライン
4 月 10 日	礼拝メッセージ	練馬グレースチャペル
随時継続的に	聖書的世界観／包括的宣教の啓発・訓練	国内各地

* 上記は現在までで分かっている暫定的な範囲の予定です。

連絡先（奉仕・各種仕事のご依頼はこちらへ）

陣内への Email shun@karashi.net 無料メルマガ、YouTube 放送、Podcast、ブログなど→「陣内俊」で検索

ご支援のための献金方法

私の活動は、支援者の皆様の善意の支援献金によって支えられています。経済的支援をもってご協力くださる方は、お手数ですが以下のいずれかの方法で口座にお振込ください。ご支援を心より感謝いたします。

- ゆうちょ銀行口座番号 12110-91889141 名義：「陣内俊を支える会」
- 他行からの振込 店名（店番）：〇八九（ゼロハチキュウ）（089）預金種目：当座
口座番号：0142825 「陣内俊を支える会」
- 郵貯振替口座番号 00830-1-142825 名義：「陣内俊を支える会」
(同封の振込用紙がご利用いただけます。)

- *振込用紙をご入り用の方、ゆうちょ口座からの自動引き落としを利用されたい方はお知らせください。
- *振込用紙（赤色・手数料当方負担）を同封いたしますが、振込用紙は決してご支援を催促するものではありません。お振込くださるときにご利用ください。（毎月ご利用の方のために複数枚同封しています。）
- *Prayer Letter の購読、自動引き落としを停止されたい方、またはお届け先の住所に変更がある方は、お手数ですが、上記連絡先のいずれかにご連絡ください。